

● 侵入防止 ● ～つづき～

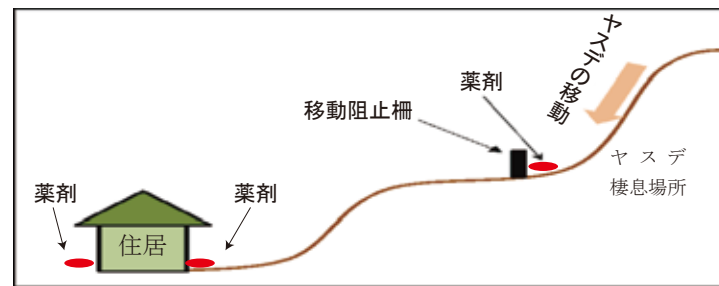
- 農業用のアゼシートを活用した移動阻止柵を、山裾等の林地と住宅地との境界に作る。



＜アゼシート活用の移動阻止柵＞

- ヤスデは薬剤に弱いといわれています。アゼシートの外側(山側)や家屋の周りに薬剤を散布しておくことで、侵入を防止することができます。

- 薬剤の散布
薬剤は、説明書をよく読んでお使いください。



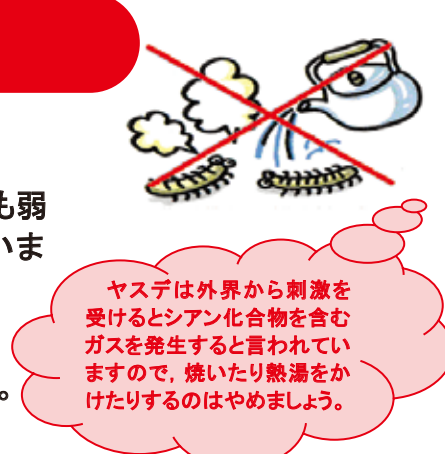
＜アゼシートの外側(山側)への薬剤散布によるヤスデの死骸＞

● 駆除方法 ●

ヤスデは、農作物に被害を与えたり、人に害を及ぼしたりしません。

- ヤスデの幼体は成体と比べ日光や乾燥、体への刺激に対しても弱いので、幼体の多い時期に田畑の掘り起こしや下草払いを行いましょう。
 - 本土地域: 1月～8月頃
 - 奄美地域: 11月～6月頃
- 薬剤散布時期は、ヤスデが地表で活動する時期が効果的です。
 - 本土地域: 7月頃～
 - 奄美地域: 4月頃～

※薬剤散布に当たっては、近隣の農耕地に薬剤が飛散することのないように、また、河川や用水路(側溝)に薬剤が入らないように十分注意しましょう。



詳しくはお住まいの市町村役場の環境衛生担当課
又は県廃棄物・リサイクル対策課(099-286-2594)にお問い合わせください。



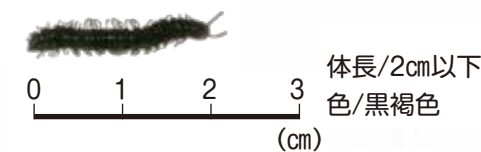
ヤンバルトサカヤスデのまん延防止に御協力ください

ヤンバルトサカヤスデとは？

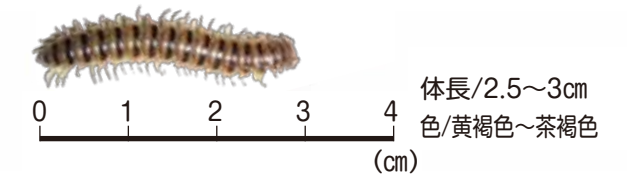
- ヤンバルトサカヤスデは台湾原産の外来生物です。鹿児島県では、奄美地域、南薩地域などを中心に発生しています。
- 農作物や人に害を及ぼすことはありませんが、繁殖力が強く、おびただしい数で集団移動したり、ブロック塀や壁をよじのぼったり、家屋の中に侵入したりすることから、強い不快感を与えるものです。



◆在来種のヤスデ



◆ヤンバルトサカヤスデ



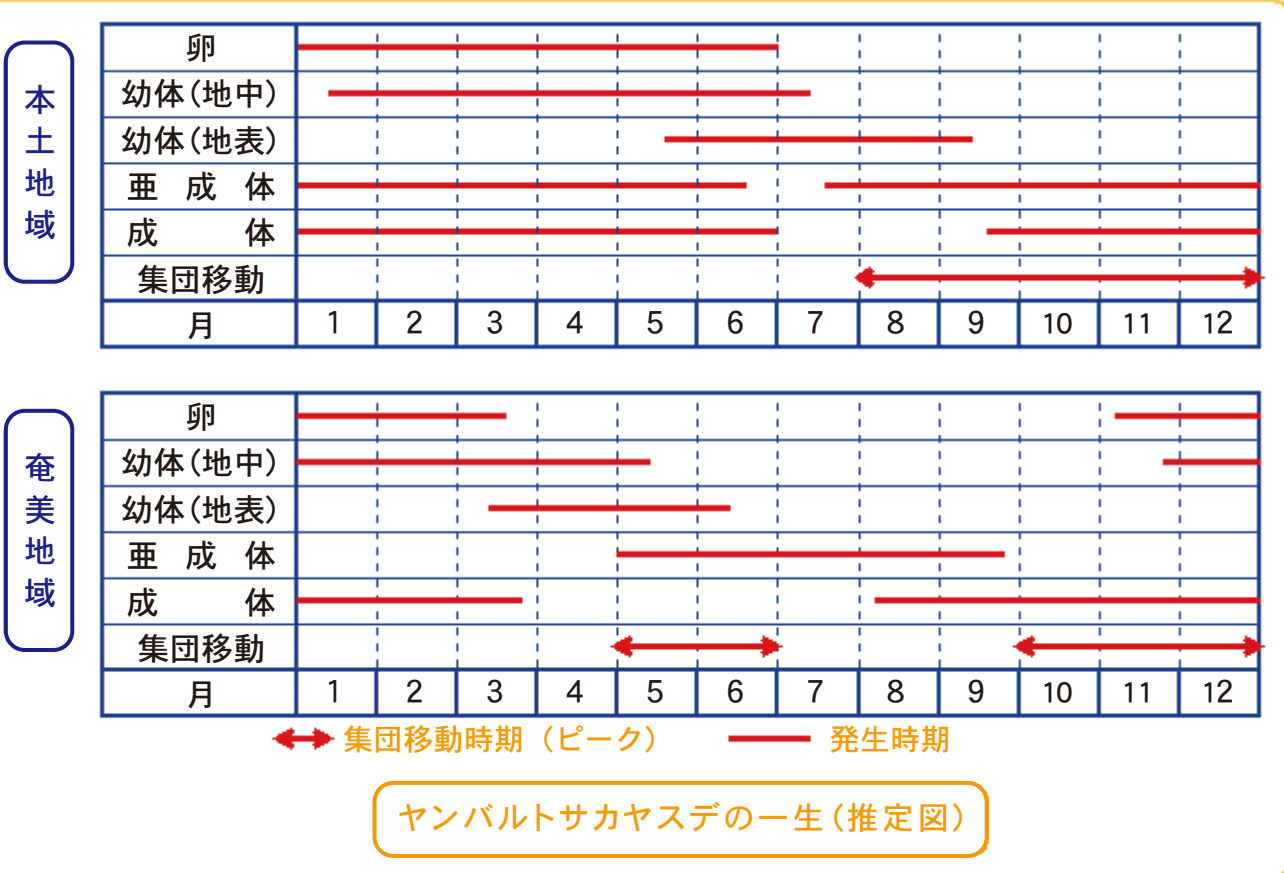
まん延防止対策

ヤスデのまん延は、棲息地域からの樹木等の移植の際に土や堆肥などとともに、卵、幼体、成体が人為的に運ばれることがもっとも大きな原因であるといわれています。

- 棲息地域からの園芸樹木等の根付き植物の持ち出しは極力避けるようにしましょう。やむを得ず持ち出す場合には、株もと・根回りの土壤にジョロ等を用いて薬剤を十分に注ぎ込みましょう。
- 鉢物についても、ジョロ等を用いて同じような処理をするか、また鉢全体を薬剤に浸すなどの処理をしましょう。
- 宅配便を利用して、根付き植物を送る場合も、同様の処理を行いましょう。
- 堆肥、敷わら、茅、芋づる等や土木工事等に伴う土砂等をやむを得ずヤスデの棲息地から搬出する場合は、搬出現場で薬剤処理や燻蒸処理をしましょう。

ヤンバルトサカヤスデの一生

- 卵→幼体→亜成体→成体と発育し、寿命は約1年～1年半です。
- 交尾期は、本土地域では11月～12月頃、奄美地域では10月～11月頃で、交尾後約1か月で産卵します。
- 卵は球状、乳白色、直径0.5mmで、一度に150個～350個程度、ぶどうの房状のかたまりで産み出されます。また、孵化率は高く、7日～10日前後で孵化します。
- 集団移動時期は、本土地域では8月～12月頃、奄美地域では年に2回あり、亜成体の集団移動が5月～6月頃、成体の集団移動が10月～12月頃に起こります。
なお、堆肥等で増殖した個体群の集団移動は、この期間以外にも起こります。
- 湿度の高い雨上がりの夜によく集団移動します。
- 繁殖力が強く、広域に定着すると根絶は困難といわれています。



卵

幼体

成体

ヤンバルトサカヤスデの防除方法

● 環境整備 ●

ヤスデは、餌となる落葉などのあるところや、日当たりの悪い湿気のある場所を好みます。ヤスデの棲息しにくい環境づくりを、地域で一体となって繰り返し実施することが重要です。

- 土手の草払いや下草刈りを徹底し、日当たりをよくし、暗く湿った場所をつくらないようにしましょう。
- 側溝は周辺も含めて清掃を徹底し、ヤスデが入り込まないようにして、雨水に流れて移動することを抑制しましょう。



● 侵入防止 ●

ヤスデは集団で移動したり、壁や塀をよじ登ったり家の中に侵入したりします。

- ヤスデは表面がツルツルした所は進めません。
 - ・ 養生テープ(建築用マスキングテープ)やステンレス板を家屋の周り(柱や壁など)に貼る。「ヤスデ返し」の設置



<養生テープ(緑色部分)を使ったヤスデ返し>
(写真: 錦江湾高校提供)



<ステンレス板を使ったヤスデ返し>